

# 高木美、菜 押切 追抜き 2位

## 小平 500日本新で初V

### 世界距離別スケート

【江陵(カンヌン、韓国)】平昌五輪テスト大会を兼ねたスピードスケートの世界距離別選手権第2日は10日、韓国の江陵で行われ、女子団体追い抜きで日本(高木美帆、日体大、帯南商高、押切美沙紀、富士急、駒大苫小牧高、中札内中出、高木菜那)日本電産サンキョー、帯南商高出)が2分56秒50で2位に入った。優勝はオランダ。

女子5000円で小平奈緒(相澤病院)が37秒13の日本新記録をマークして初優勝した。日本勢の優勝は2015年の女子団体追い抜き以来。個人種目では05年に男子5000円で制した

### 低地リンクで

### 最速をマーク

### 女子団体追い抜き

本は2年連続の2位。同組ンタは強いというのが一木菜も勝に故障だったライバルのオランダ。番の印象。まだ縮まらないを抱える。苦しに前半で大きく差を広げられ、後半は粘ってじりじりての完敗に、さばさばとしてでも、この日は低地リンク。木菜は「この悔しい思いを」と1年後の平昌五輪で忘れず、五輪で優勝できるの雪辱を誓った。



女子団体追い抜きで滑走する(左から)高木美帆、押切美沙紀、高木菜那=10日、韓国・江陵(時事)

## 小平 五輪金メダルへ手応え

### 食生活改善で体調万全

慣れ親しんだエムウエーブ(長野市)に氷の質が似ている。平昌五輪の本番リンクを、小平が低い姿勢で伸びやかに滑り抜けた。結城コーチから自身が持つ日本記録を更新する37秒13のタイムを知らされると、小さくガッツポーズ。「自分の(シーズンベストの)記録を伸ばしてオランダから日本に戻した。遅らされた結果」。念願の世界一に大きなおまげがついてきた。シーズン最高の舞台でも、今季のW杯で6勝を積み重ねた自信は揺るがなかった。これまでと比べて「あまりどきどきせず、自分自身に集中できた」。スタートで同組の選手に先行されても焦らず、50分すぎから加速して後半につなげた。

今季は3年ぶりに練習拠点をオランダから日本に戻した。遅らされた結果」。念願の世界一に大きなおまげがついてきた。シーズン最高の舞台でも、今



女子500円で優勝し、メダルを掲げる小平奈緒

### これまでの日本人優勝者

1996	男子	500	清水宏保
97	男子	500	堀井学
98	男子	500	清水宏保
99	男子	500	清水宏保
2000	男子	500	清水宏保
01	男子	500	清水宏保
05	男子	500	清水宏保
15	男子	500	清水宏保
17	女子	500	高木菜那

を過(しても)「疲れたがたまっていない」。冬場に1度はかかっていた風邪とも無縁で、万全の状態で迎えられたことが快挙を後押しした。

ソチ五輪の1年前に行われた世界距離別では6位。今回は格段に違う手応えを得た。「平昌五輪へ最高のシミュレーションができた。もつとほじけるのは五輪に取って置く。36秒台が出るように練習していきたい」。金メダルへの道筋をしっかりと見据えた。

【男子】▽5000円①ヤン・スメーケンス(オランダ) 34秒58②ニコ・イイレ(ドイツ) 34秒66③ルズラン・ムラシヨフ(ロシア) 34秒76④長谷川翼(日本電産サンキョー) 34秒87⑤加藤宗治(日本電産サンキョー) 34秒91⑥村上右磨(村上電気) 34秒99

▽団体追い抜き①オランダ 3分40秒66②ニュージーランド 3分41秒08③ノルウェー 3分41秒60④日本(中村奨太) 3分41秒60⑤日本(中村奨太) 3分41秒60⑥日本(中村奨太) 3分41秒60⑦日本(中村奨太) 3分41秒60⑧日本(中村奨太) 3分41秒60⑨日本(中村奨太) 3分41秒60⑩日本(中村奨太) 3分41秒60



メダルを掲げる(左から)押切美沙紀、高木美帆、高木菜那

まだ差がある  
高木美帆 私たちが大きな失敗をして負けたわけではない。まだオランダとは差があるなと感じたけれど、よくなっているという実感もある。前向きに捉えている。

悔しい思い  
高木菜那 ゴールした瞬間に負けてしまった悔しいという思いが強かった。出し切れてタイムも低地リンクのベストが出たのはよかった。

出せる力出した  
押切美沙紀 2番で悔しかったけれど、出せる力は出したのでそこはよかった。コーチが私を(メンバー)

1に選んでくれたので、期待に応えたいという一心で滑った。

5位にも充実感  
男子団体追い抜き 師田、土屋、中村

▽:男子団体追い抜きの日本は目標の表彰台に届かず5位だったが、ウィリアムソン師田は「出せる力を出し切れた」と充実感を漂わせた。序盤から飛ばし、このメンバーとしては最も速いタイムをマークした。1方、得意とする土屋がスピードについていけず遅れそうになった際には、中村奨が背中を押すチームプレーも見せた。

今季はメンバーを固定して戦い、3人の連係は少しずつ向上している。中村奨

は平昌五輪に向けて「個人」の力も上げてメダルを取りたい」と意欲を燃やした。

助言受け力発揮  
男子5000 6位の長谷川

▽:男子5000円で23歳の長谷川が6位と健闘。男子10000円、15000円の世界記録保持者で、現役を続けながら日本電産サンキョーのコーチも務めるシヤニー・デービス(米国)から「滑りは良くなっているから落ち着いていけ」と助言を受け力を発揮した。今季課題にしているカーブの滑りには不満も残っていた。「来年は6番という順位では満足できない」ときっぱり。平昌五輪のメダルに光が差し込んできた。

1桁順位は収穫  
8位の加藤

▽:男子5000円で加藤は不満の残る8位。重心の位置を少し後ろにしたフォームに練習で手応えを感じていたが、「全力を出したときに崩れた。カーブの対応がでなかった。膝の故障で夏場に十分な練習が積めず、下半身を強化できなかった影響が出た。

前半戦は不振にあえぎ、W杯の代表からも外れた。それだけに、世界距離別で1桁順位になるまで盛り返したことは収穫。「今取り組んでいるものを完成して、体力をつけられれば大丈夫」。1年後の平昌五輪に光が差し込んできた。